

心因性脱毛とは

何らかのストレスが原因で過剰に皮膚を舐めてしまい、脱毛することを言います。ヒトで言うところの、爪を噛む、ささくれを剥く、抜毛症などのような状態です。

脱毛を起こす他の皮膚炎に当てはまらない場合に仮診断されるため、心因性と疑われるまで時間を要することがあります。

《症状》

体側やお腹、足先、大腿部など、口の届く範囲を舐めたりかじったりします。舐められるのを避けるために隠れて行うこともあります。舐めた刺激で細かい傷が付き、細菌が入り込んで悪化する恐れがあります。

膀胱炎によるお腹の違和感から、お腹を舐め壊してしまうケースもあります。



《ストレスに感じやすい事》

- ✓ 来客時に隠れる場所がなく、他人に見られること。
- ✓ ノラ猫がお家の近くにいる・声がある。
- ✓ お散歩中のわんちゃんが通りかかる。
- ✓ 工事などの騒音
- ✓ 過剰なスキンシップ、構いすぎ
- ✓ トイレへの不満(場所、大きさ、砂の種類などが気に入らない)
- ✓ 家庭環境の変化(赤ちゃんが産まれた、好きな家族との離別など)
- ✓ 気温の変化、天候
- ✓ 同居動物との不仲
- ✓ きつく叱られる などなど…



《治療》

◆ 行動療法

ストレスの原因を究明し、ストレスを解決してあげることが必要です。分離不安症でも心因性脱毛が見られることがあり、その場合は行動療法が必須となります。

◆ 内科治療

行動療法の効果が弱い場合、ストレスを軽減させる内科治療が必要になることがあります。ストレス軽減効果のあるミルクプロテインのサプリメントや、抗うつ剤が選択されます。

その他、舐められないように服を着せたり、エリザベスカラーを着用することもあります。かえってストレスを助長してしまう場合もあり、慎重な観察が必要です。